
リセット

一枚の葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リセット

【コード】

N3299D

【作者名】

一枚の葉

【あらすじ】

夜の鎖。少年の名前は神谷鎖夜【カミヤサヤ】。彼の瞳は濃い銀色。運命は廻り始める。少しずつ音をたてながら。

プロローグ

これは記憶の片隅。

全体が飾り気のない白で覆われた部屋。奥にはぽつんと二つの小さな窓が寂しそうに肩を並べ、それを通して太陽の暖かい光が射し込んでいる。

その部屋の片隅にある、暖かい光を少しだけ受けている模様も何もない質素に感じられるような真っ白なベッド。この部屋にはそれ意外何もなかった。

ベッドの上には整った、背中中央まで達している髪を持つ、清楚な顔立ちをした女性が一人座っていた。彼女は神妙な面持ちでまだ小学校に入学したばかりの幼い頃の俺に小さく手招きをする。

俺はそれに足早になりながら招かれる。俺は久しぶりの再開を子供心に素直に嬉しく感じていた。

しかし、その嬉しさは消えた。彼女の言葉により、一瞬にして。

「私は、もう長くないの。もう、いつ死ぬか分からない……」

俺はその言葉に、無言で首を横に繰り返して振った。あの時、涙をいくつも溢したのを覚えている。

「ごめんね……」

横を向き、ベッドから細い足を出して、瞳を潤ませながら、俺を抱き寄せる彼女。俺はそれに、ただ従う。

「嫌だよ……。お母さん……。僕を独りにしないで……」

「大丈夫……。鎖夜【サヤ】は独りにならないよ。きっと……」

俺は、ただ泣くことしかできなかった。決まってしまった人の死は、まだ幼い俺にはどうすることもできなかった。いや、大人でさえもそんなことはできない。

彼女……。母さんは俺が泣き止むまでずっと俺を抱きしめていた。そして、母さんは俺が泣き止むのが分かると優しい表情を引き締めて、話しかけてきた。

「鎖夜、あなたの名前の由来教えてあげる。お父さんがどうしもつて、決めたこの名前……」

俺は母さんの顔を黙って見つめる。綺麗なその顔には涙の痕がすすかに残っていた。母さんは胸に手を当てて、ゆっくりと口を動かした。

「夜の鎖……」

あなたはいずれ訪れる夜を拘束するための鎖……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3299d/>

リセット

2011年1月4日03時58分発行